

令和四年三月六日 真実の光みち会館あのみやうでん安明殿あんみやうでん参道整備清めの儀

神 示

こたびの動き 機が熟し

「希望の光みち」が通る環境が 世社会に開かれてゆく

—— 神 仏に通る道は

一筋に 真つすぐに通る「心の道」——

「希望の光みち」を通す 心の姿に重なってゆく

信者に申す

時代の力運命に重なる「心の姿」を

神に求めて 「教え」に触れる

心の動きは安定し

「運命」に導かれた日々にちにちを歩んでゆける

そこに 我が家家庭の「心の道」も 太く 強くつながり

仏 先祖の魂も穏やか

人人間は皆 神の手中 運命を通し 「心」守られている

朝夕 神神魂に心預けて通る「神の道」

そこに 仏 先祖の魂も安定し

信者の心は「仏の道」に生きられる

「光明殿」こうみょうでん「安明殿」に守られる「真実の光会館みち」は

信者の心を 神 仏につなぐ

一筋の「光みち」と悟るべし

神 仏に 一筋 真つすぐにつながる内参道うちさんどうを進み

「希望の光みち」を一筋歩む信者であれ

神 示

姿 形を頼る人間は 環境の中で心を育て 人生を歩む
神 仏を頼り 心預けて生きる

尊崇 尊信の心を育むために

思いを静める環境が必要

安明殿へ向かう参道の整備が意味すること――

時代の運命が大きく動く今

眞実の光会館の姿を高めて

ますます多くの人の心は

神との出会いを深めてゆく

光明殿へと 心導く参道を 思い静めて歩みを進め

信者の心は神の手中包まれる

安明殿で 仏 先祖の魂と出会うため

真つすぐ続く参道を

心静めて歩みを進める信者の心は

感謝 報恩の思いを 神の手中深める

――時代の变化に「人生」添わせる人は皆

「神の道」「仏の道」を守り抜き

「眞理」を心の支えに生きている――

心正しく「信者の道」を歩み抜くため

今 神は 眞実の光会館の環境を引き上げる

神 示

申し上げる

—— 神の光を心で見る ——

この真実がかなうよう 神は真実の光会館をこの世に開いた

この環境に出入りを重ねるほど 人の心は悟りを深め 真実を知る

「道」を守る価値に気付き

「希望の光」に起きる不思議を 一人 また一人 体験してゆく

「真理」を悟り 「正道」を行く人が増えてゆく

今までも —— これからも ——

今 世界は 「真理」を求め 神との出会いを深めている

宗教 学問では 心救われぬ時代へ 人類は入った

その時 「真実の神」と出会った人は皆

社会のゆがみに気付き 自ら「実体」を修正して行く

ますます 「真実の光会館」の光が 世の人の心に映り

多くの人がこの環境へ心を向ける

光明殿 安明殿 二つの座が 人の心に悟りを与える

「真理」に気付きを深め

仏の道・人の道を 正しく歩む人々が増えてゆく

そこに 社会の姿は安定し 万人 万物の運命が調和してゆく

こたびの改修を通し

「光」を通す心の姿が 形となって 人々の心に映る

真実を「心」で確認し

真実の光会館 つながる偉光会館・神の座の尊さを

心で見詰めてほしい

形を頼って生きる人は

参道橋を歩み 渡ること 神・仏へ向ける心が育ってゆく

神 示

真実の光みち会館は 神の力が宿り

救いを求める人人々の心を 大きく包む

神が使者を通し 世に示す教え・「真理」を学ぶこと

学べば 社会の姿が見える

見えて 「道」欠く心の動きは起こらない

人生に迷い 悩み 苦しむときも

教えが「心人生」を導き 喜び人生にあふれる時が来る

「心の故郷ふるさと」神前で 我が思いを神神魂に語る

そこに 「心」は高く清められ

事故 災難を避けることがかなう

今 時代は大きく変わる

世界の姿を見てごらん

「真理」なき人人々の心の動き不安が見えるはず

神が世に示す教え・「真理」を 軽んじてはいけない

こたびの改修――

神の手の中 大きく守られ

神示教会は ますます世社会に出て 多くの人人々の心を救う

この環境を大切に守り 磨き上げてくだされ